

【文化学部】令和7年度 学部教学マネジメント報告書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制の変更点 ※計画書から変更があった場合

変更なし。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの改善に向けた今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

① カリキュラムマップ

学部改組に伴う新入生用カリキュラムマップを新たに作成した。

② シラバス

学部改組に伴う新入生用カリキュラムを含めて、カリキュラム委員会を中心にシラバスチェックを行い、改善に取り組んだ。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

学部改組に伴う新入生用ナンバリングを新たに作成した。

課題

学年暦が14回+オンデマンドとなったことに伴い、シラバスにおける授業計画及び記載方法について、授業形態の違いにより第三者チェック方針等の調整・検討に困難が生じている。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化の今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

学部改組カリキュラムにおいて、学修成果の可視化等を目指し、卒業研究（論文・発表・制作等）を課す4年次演習を必修とした。

課題

特段の課題はない。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況の評価と明らかになった課題

評価（授業科目の到達目標の達成状況 および 学生の資質・能力の修得状況）

GPA 数値に基づき履修登録上限単位数を設定する CAP 制を導入しており、IR 資料において GPA 分析の確認等を行っている。

課題

アセスメントの重要なツールのひとつとしている卒業時調査（４年次生調査）の回答率について、前年に比して伸びたものの 100%ではない。

アセスメントプランの取り組み

① 結果

学部改組に伴う主要授業科目の設定等、とりわけ DP と関連したアセスメントの方針を検討・確定した。

② 課題

特段の課題はない。

5. 学部における教学マネジメントの組織体制を踏まえた教員組織の編制方針の見直しの状況

評価（該当する番号にチェック）

- ☒ ①学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえて実施できた。
- ☐ ②学部における教学マネジメントの検証体制を一部踏まえて実施できた。
- ☐ ③学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえた実施ができなかった。
- ②もしくは③を選択した場合はその理由を自由記述欄に記入

自由記述欄

—

※この内容は、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP へ掲載します。